

夢の世界を

教材研究

学習目標 拍にのって、響きのある声で合唱しよう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) 音色、リズム、テクスチャ、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 歌詞の内容や曲想に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

A表現A表現 (1) 歌唱 ア, イ (ア), ウ (ア)

〔共通事項〕音楽を形づくっている要素：音色、リズム、テクスチャ、構成
用語や記号など：拍子

指導と評価の計画の例（全2時間）

●学習内容 ・学習活動	●評価規準【評価方法】
<p>●歌詞の内容や曲想に関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none">・範唱を聴き、1番と2番を歌う。・歌詞の表す情景や心情について自由に話し合う。 <p>●音色（斉唱、混声三部合唱の響き）、リズム（8分の6拍子）、テクスチャ（斉唱、混声三部合唱）、構成（A、B）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none">・曲の構成に着目し、前半Aと後半Bを歌ったり聴いたりしてその響きを比較し、聴き取ったことや感じ取ったことをワークシートに記入する。・歌いながら体を動かしたり指揮をしたりして、8分の6拍子のリズムの特徴を捉える。・リズム、テクスチャに注目し、作曲者はなぜ、このように作曲したのかをグループで考えてワークシートに記入し、発表し合う。・知覚したことと感受したこととの関わりや、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて、適宜関係する記入内容を線で結ぶ。	<p>●知曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。【観察、ワークシート】。</p>

<p>●曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知覚したことと感受したこととの関わりについて考えたことを基に、声の音色、8分の6拍子の拍子感、斉唱と混声三部合唱の対比などを生かしていろいろな歌い方を試しながら、曲にふさわしい音楽表現について考え、ワークシートに記入し発表する。 	<p>●思音色、リズム、テクスチャ、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。【観察、ワークシート】</p> <p>*態は各時の取組を総括的に評価する。</p>
<p>●創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に学習したことを基に、曲にふさわしい音楽表現について考え、個人やグループ、学級全体で、発声、言葉の発音、身体の使い方（呼吸法）などを工夫しながら、いろいろな歌い方を試す。 ・どのように歌うかについての思いや意図を再確認するとともに、考えが変わったり、より具体的になったりしたところがある場合は、ワークシートに加筆修正する。 ・これまでの学習を生かして、学級全体で歌う。 ・学んだことをワークシートに記入する。 	<p>●技創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。【演奏】</p> <p>●態歌詞の内容や曲想に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。【観察、ワークシート】</p>

翼をください

教材研究

学習目標 パートの役割を理解して合唱しよう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) リズム、テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 曲想と歌詞の内容との関わりや、声部の役割と全体の響きとの関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、他者と合わせて歌うことに親しむ。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

A表現 (1) 歌唱 ア, イ (ア), ウ (イ)

〔共通事項〕 音楽を形づくっている要素：リズム、テクスチャ、強弱、構成

指導と評価の計画の例 (全2時間)

●学習内容 ・学習活動	●評価規準【評価方法】
<p>●歌詞の内容や曲想に関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none">・範唱を聴いて、印象などを自由に話し合い、歌詞の表す情景や心情、曲の雰囲気に関心をもつ。 <p>●歌詞の内容や音楽の構造の特徴を捉え、曲想との関わりについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none">・パートごとに歌ったり、CDを聴いたりして、A B Cそれぞれの部分のパートの役割、パートの重なり方、強弱、伴奏の特徴について分かったことや気付いたことをパート内で発表し合い、教科書p.16の表にまとめる。・各パートの意見を学級全体で共有し、音楽の特徴について理解を深める。	<p>●知曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。【観察、ワークシート】</p> <p>* 態は各時の取組を総括的に評価する。</p>
<p>●リズム、テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽表現を創意工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none">・合唱を通して、曲にふさわしい表現の仕方(歌い方)について考え、工夫したい点(自分の意見)を教科書p.16の表にまとめる。・強弱の変化については、強弱を付けずに歌ったあと	<p>●思リズム、テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。【観察、ワークシート】</p>

強弱を付けて歌って実際に比較し、クレシェンドなどの効果について述べ合う。

- ・学級全体で、曲にふさわしい表現の仕方（歌い方）について話し合い、工夫したい点（友達の意見）を表にまとめる。

●**創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。**

- ・表にまとめたことを基に、パートごとや学級全体で話し合ったり歌い試したりして、表現を工夫する。

●**本題材の学習を振り返る。**

- ・曲想と歌詞の内容との関わりや、声部の役割と全体の響きとの関わりを生かした表現について振り返り、ワークシートにまとめる。

- 技** 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付け、歌唱で表している。【演奏】

- 態** 曲想と歌詞の内容との関わりや、声部の役割と全体の響きとの関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。【観察、ワークシート】

夏の思い出

教材研究

学習目標 情景を思い浮かべながら、言葉を大切に歌おう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) 旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 歌詞の表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

A表現 (1) 歌唱 ア, イ (ア), ウ (ア)

〔共通事項〕 音楽を形づくっている要素：旋律、強弱

用語や記号など：dim., テヌート, フェルマータ

指導と評価の計画の例 (全2時間)

●学習内容 ・学習活動	●評価規準【評価方法】
<p>●歌詞の内容や曲想に関心をもち、旋律や強弱などの特徴を捉え、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none">・範唱を聴いて印象などを自由に話し合う。・歌詞を音読したり歌ったりして、歌詞の表す情景や心情、曲の雰囲気などをワークシートに記入する。・記入したことを基に学級全体で発表し合い、他者の意見でよいと思ったことをワークシートに書き加える。・尾瀬の風景を中心とした写真や映像、自然の音（風や水の音、鳥の声）などから、歌詞の表す情景を想像する。・作詞者、作曲者について教科書などを参照して知る。・歌詞の表す情景を思い浮かべながら歌う。・歌いながら言葉の抑揚に合わせた旋律の動きに気付くとともに、曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて考える。 <p>●音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none">・歌ったり指導用CDを聴いたりして、旋律（音のつながり方、フレーズ）や強弱を知覚・感受し、音楽の特徴をワークシ	<p>●知曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解する。【観察、ワークシート】</p> <p>●思旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。【観察、ワークシート】</p>

<p>ートに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞と旋律との関係を感じ取り，旋律と強弱との関わりや，伴奏の形や響きの変化などについて発表し合う。 ・強弱や伴奏の変化がどのような効果を生み出しているかを感じ取る。 ・知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに，音楽の特徴と歌詞の内容とを関わらせて歌う。 ・知覚したことと感受したこととの関わりについて考えたことを基に，音のつなげ方やフレーズの捉え方，強弱などを変えて，グループで様々な歌い試しながら，曲にふさわしい歌唱表現について考える。 ・どのように歌うかについての思いや意図，また，表現を工夫するポイント及びその理由を個人で考え，ワークシートに記入する（個人）。 ・ワークシートを基に発表し合い，グループや学級全体で歌い試しながら，曲にふさわしい音楽表現について共有する。 	<p>*態は各時の取組を総括的に評価する。</p>
<p>●創意工夫を生かして「夏の思い出」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に学習したことを想起しながら，曲にふさわしい音楽表現となるようにグループや学級全体で，発声，言葉の発音，身体の使い方（呼吸法）などをいろいろと試す。 ・思いや意図と，発声，言葉の発音，身体の使い方（呼吸法）などの技能との関係を意識しながら，グループや学級全体で歌う。 ・学習を振り返り，歌詞の内容，曲の背景，曲想，音楽の構造などに触れながら，学んだことをワークシートに記入する。 	<p>●技創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声，言葉の発音，身体の使い方などの技能を身に付け，歌唱で表している。【演奏】</p> <p>●態歌詞の表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。【観察，ワークシート】</p>

荒城の月

教材研究

学習目標 歌詞と旋律が生み出す雰囲気を楽しむながら歌おう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) 速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 歌詞の表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、我が国の名曲を歌い継いでいく心情や態度を育む。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

A表現 (1) 歌唱 ア, イ (ア), ウ (ア)

〔共通事項〕音楽を形づくっている要素：速度、旋律、強弱

指導と評価の計画の例 (全2時間)

●学習内容 ・ 学習活動	●評価規準【評価方法】
<p>●歌詞の内容や曲想に関心をもち。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 範唱を聴き、印象などを自由に話し合う。・ 歌詞を音読したり歌ったりして、歌詞の表す情景や心情、曲の雰囲気などについて感じたことをワークシートに記入する。・ 作詞者や歌詞の内容について知り、文語体や七五調のリズムを楽しむながら歌詞を朗読する。 <p>●知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲想と歌詞の内容とを関わらせて歌う。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 歌ったり聴いたりして、歌詞の内容や、速度、旋律(音のつながり方やフレーズ)、強弱などの音楽を形づくっている要素から知覚・感受したことをワークシートに記入する。・ 記入したことを基に、グループや学級全体で話し合い、他者の意見でよいと思ったことをワークシートに書き加える。	<p>●知曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解している。【観察、ワークシート】</p> <p>* 態は各時の取組を総括的に評価する。</p>

●音楽を形づくっている要素を知覚・感受し、曲想や歌詞の内容を味わいながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。

- ・前時に学習したことを基に、歌詞の内容や旋律の動きと強弱との結び付きを意識しながら、個人やグループで歌い試し、ふさわしい音楽表現について考え、気付いたことや表現の工夫についてワークシートに記入する。
- ・原曲と編曲された作品を比較して異なる点に着目し、その違いによってどのような特徴や雰囲気が生み出されているか、聴いたり歌ったりしながら、気付いたことや感じたことをワークシートに記入する。
- ・ワークシートに記入したことを基に、どのように歌いたいことや工夫したいポイントについて考え、意見交換する。

●創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。

- ・思いや意図と、発声、言葉の発音、身体の使い方（呼吸法）などの技能との関係を意識しながら、グループや学級全体で歌う。

●歌詞の内容や旋律が醸し出す雰囲気を生かした表現について振り返る。

- ・歌詞の内容や音楽の特徴を生かして表現することに触れながら、学んだことを振り返り、ワークシートにまとめる。

●【思】速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。【観察、ワークシート】

●【技】創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。【演奏】

●【態】歌詞の表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。【観察、ワークシート】

夏の日の贈りもの

教材研究

学習目標 旋律の動きを理解して合唱しよう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) 旋律、強弱を知覚し、それらの動きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり及び他者と合わせて歌うことに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を養う。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

知A表現 (1) 歌唱 ア, イ (ア), ウ (イ)

〔共通事項〕音楽を形づくっている要素：旋律、強弱

指導と評価の計画の例 (全2時間)

●学習内容 ・学習活動	●評価規準【評価方法】
<p>●歌詞の内容や曲想に関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none">・範唱を聴いて、曲や歌詞の内容について自由に話し合い、歌詞の表す情景や心情、曲の雰囲気に関心をもつ。 <p>●曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none">・教科書p.29を参考にしながら、主旋律を階名唱したり、旋律の上がり下がりを手で表しながら歌ったりして、旋律の動きやフレーズについて気付いたことをワークシートに記入する。・旋律の動きと歌詞から読み取った心情や情景を結び付け、どのように歌いたいかについて、自分の思いや意図をワークシートに記入する。・記入したことを基に、グループや学級全体で発表し、他者の意見でよいと思ったことをワークシートに書き加える。	<p>●知曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。【観察、ワークシート】</p> <p>*態は各時の取組を総括的に評価する。</p>
<p>●特徴的な音楽の構造を知覚し、それらの動きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、歌唱表現を</p>	<p>●思旋律、強弱を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現</p>

工夫する。

- ・各パートに分かれ、正確な音高やリズムで歌えるようにする。
- ・歌ったりCDを聴いたりして、音楽の特徴（旋律、強弱など）や、パートの役割と全体の響きについて確認し、曲にふさわしい歌唱表現について考えるとともに、工夫したいことをワークシートに記入する。
- ・どのように歌うかについての自分の考えや、工夫するポイントを発表し話し合う。

●創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。

- ・各パートの意見を学級全体で共有したり、合わせて歌ったりしながら、パートの役割と全体の響きを生かした音楽表現について話し合い、よりよい音楽表現を追求する。
- ・これまでの学習を生かして、学級全体で歌う。
- ・学んだことを振り返り、ワークシートにまとめる。

としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。【観察，ワークシート】

- 技**創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付け、歌唱で表している。【演奏】

- 態**曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり及び他者と合わせて歌うことに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。【観察，ワークシート】

サンタ ルチア

教材研究

学習目標 曲想を生かして表情豊かに歌おう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) 音色、リズム、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 3拍子の雰囲気を感じ取り、強弱を生かした表現の工夫や原語の美しい響きに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

A表現 (1) 歌唱 ア, イ (ア), ウ (ア)

〔共通事項〕 音楽を形づくっている要素：音色、リズム、旋律、強弱

用語や記号など：拍子

指導と評価の計画の例 (全2時間)

●学習内容 ・学習活動	●評価規準【評価方法】
<p>●歌詞の内容や曲想に関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none">日本語による範唱を聴いて、歌詞の表す情景や曲想を捉え、感じ取ったことをワークシートに記入して、発表し合う。学級全体で共有したことを参考にしながら、日本語で歌う。 <p>●曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none">カンツォーネや曲の背景について知る。原語による演奏を聴き、感じ取った特徴をワークシートに記入する。原語で歌う。改めて日本語で歌い、旋律、強弱、音色などから知覚・感受したことをワークシートに記入する。	<p>●知曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解している。【観察、ワークシート】</p> <p>*態は各時の取組を総括的に評価する。</p>
<p>●音色、リズム、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none">声の音色、拍子、旋律の反復や強弱の変化などに着	<p>●思音色、リズム、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。【観察、ワークシート】</p>

目して聴き、どのように歌うかについての思いや意図をもつ。

- ・声の音色の特徴を感じ取るために、いろいろな発声で歌い試す。
- ・3拍子の拍子感を捉えるために、指揮をしながら歌う。
- ・楽譜を見て同じ旋律の部分に印を付け、旋律の反復を意識しながら歌う。
- ・どのように歌うかについて自分の考えを発表し、表現を工夫するポイントについて学級全体で話し合う。

●**創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方（呼吸法）などの技能を身に付けて歌う。**

- ・話し合ったことを基に、個人やグループでよりよい表現を追求する。
- ・表現を工夫して分かったことや、歌うときに大切なポイントなどをワークシートに記入し、発表する。
- ・これまでの学習を振り返り、学級全体で歌う。

●**技** 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。【演奏】

●**態** 3拍子の雰囲気を感じ取り、強弱を生かした表現の工夫や原語の美しい響きに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。【観察、ワークシート】

Joyful, Joyful

教材研究

学習目標 曲想の変化を生かして表情豊かに歌おう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 旋律の特徴や曲想の変化及び曲にふさわしい表現の工夫に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

A表現 (1) 歌唱 ア, イ (ア), ウ (ア)

〔共通事項〕 音楽を形づくっている要素：リズム、速度、旋律、強弱

指導と評価の計画の例 (全3時間)

●学習内容 ・学習活動	●評価規準【評価方法】
<p>●曲に関心をもつとともに、リズム、速度、旋律、強弱などの特徴を捉え、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none">・英語による範唱を聴き、旋律や曲の雰囲気について気付いたことや感じ取ったことを述べ合う。・旋律の特徴を感じ取る。・日本語による範唱を聴きながら歌う。・英語による範唱を聴いて、曲想の変化について感じ取ったことをワークシートに記入し、意見交流する。・歌ったり聴いたりしながら、AとBの部分の曲想の違いについて、感じ取ったことと音楽の特徴とを関連させて考える。・速度表示や強弱記号、リズムの変化を楽譜で確認する。・速度やリズムの変化によって、曲想がどのように変化するかを考えてワークシートに記入し、意見交流する。・AとBの部分の速度やリズムの変化によって生まれる曲想の違いを感じ取りながら日本語で歌う。	<p>●知曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。【観察、ワークシート】</p> <p>* 態は各時の取組を総括的に評価する。</p>
<p>●曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none">・AとBの部分の速度やリズムの変化によって生まれる	<p>●思リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚し</p>

<p>曲想の違いを感じ取りながら英語による範唱を聴き、前時の学習内容を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none">・楽譜や歌詞を見ながら英語による範唱を聴き、曲の雰囲気や味わって、英語の語感（発音、アクセント）などを確認する。・発音に気を付けながら歌詞を音読したあと、旋律に合わせて学級全体で歌う。・AとBそれぞれの部分にふさわしい表現を各自考え、ワークシートに記入して英語で歌い試す。・グループに分かれて旋律の動きやフレーズ、拍感などについて考え、AとBそれぞれの部分にふさわしい表現方法を歌い試す。・どのように歌うかについての思いや意図、表現の工夫をワークシートに記入する。	<p>たことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。【観察、ワークシート】</p>
<p>●創意工夫を生かして学級全体で歌う。</p> <ul style="list-style-type: none">・前時の学習内容を想起しながら、曲にふさわしい音楽表現になるよう個人やグループで発声、言葉の発音、身体の使い方（呼吸法）などをいろいろと試す。・歌い試したことをグループごとに発表し、表現について学級全体で意見交流する。・学習を振り返って学級全体で歌い、リズム、速度、旋律、強弱などに触れながら学んだことや自分の表現が変容したことなどをワークシートに記入し、発表する。	<ul style="list-style-type: none">●技創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。【演奏】●態旋律の特徴や曲想の変化及び曲にふさわしい表現の工夫に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。【観察、ワークシート】

メッセージ

教材研究

学習目標 歌詞と旋律の関わりを生かして合唱しよう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) 旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 旋律の動きや強弱の変化と歌詞の内容との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

A表現 (1) 歌唱 ア, イ (ア), ウ (イ)

〔共通事項〕 音楽を形づくっている要素：旋律、強弱

指導と評価の計画の例 (全2時間)

●学習内容 ・ 学習活動	●評価規準【評価方法】
<p>●曲に関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none">・どのような「メッセージ」なのかをイメージしながら、歌詞の内容を味わって聴く。・イメージしたことや歌詞から感じ取ったことなどをワークシートに記入し、発表する。 <p>●曲想と音楽の構造（旋律の動き、強弱）や歌詞の内容との関わりについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none">・楽譜に記されている強弱記号に気を付けながらグループで歌詞を群読し、言葉の抑揚をワークシートに線で記入する。・記入した言葉の抑揚を踏まえて、一人一人歌詞を音読する。・楽譜を見ながら、指導者の範唱に合わせて旋律を繰り返し歌う。・楽譜の旋律を線で結ぶ。・歌詞の内容や語感、旋律の動きから、なぜそのような強弱になっているのかを考え、ワークシートに記入する。 <p>●旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を</p>	<p>●知曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。【観察、ワークシート】</p> <p>●思旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。【観察、ワークシート】</p> <p>*態は各時の取組を総括的に評価する。</p>

<p>創意工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記入した旋律の動きの線と言葉の抑揚の線を比較し、歌詞の表す心情と旋律の関わりから、どのように表現を工夫するとよいかをワークシートに記入し、発表する。 ・言葉の抑揚と旋律の関わりを意識しながら、曲にふさわしい表現を工夫して全員で主旋律を歌う。 	
<p>●創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各パートに分かれて歌唱に取り組む。 ・曲にふさわしい表現を工夫して、伴奏に合わせてパートごとに歌う。 ・伴奏の形の変化と雰囲気の違いについて感じ取ったことをワークシートに記入し、パート内で意見を共有する。 ・各パートの役割を理解して音色を考える。 ・それぞれが感じ取ったことをパート内で伝え、それらを基にどのように歌ったらよいか話し合いながら、様々な表現を試す。 ・各パートの代表が自分たちの歌唱表現の工夫を学級全体に伝える。 ・互いの表現に関心を持ち、全体の響きを聴きながら他者と合わせ、自分のパートの役割を生かして合唱する。 ・自分たちの演奏を録画して視聴し、旋律の動きや強弱の変化と歌詞の内容との関わりが感じられる合唱になっているかについて意見を話し合い、学級全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●技創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付け、歌唱で表している。【演奏】 ●態旋律の動きや強弱の変化と歌詞の内容との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。【観察、ワークシート】

Let's Create !

教材研究

学習目標 構成を工夫して、言葉によるリズムアンサンブルをつくろう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴について理解するとともに、創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) リズム、テクスチャ、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、まとまりのある創作表現を創意工夫する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 反復、変化、対照などの構成や全体のまとまり、音の重なり方に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

A表現 (3) 創作 ア, イ (イ), ウ

〔共通事項〕音楽を形づくっている要素：リズム、テクスチャ、構成

指導と評価の計画の例（全3時間）

●学習内容 ・学習活動	●評価規準【評価方法】
<p>●反復、変化、対照などの構成上の特徴について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none">・指導用CDに収録されている作例を聴き、本題材の見出しをもつとともに、言葉によるリズムアンサンブルの面白さを自由に述べ合う。・教科書p.38①の「リズムのもと」の例を全員で演奏し、「リズムのもと」のつくり方を理解する。・3～4人のグループに分かれ、1人1つずつ好きな材料を選び音価の異なる「リズムのもと」を3つ作り、ワークシートに記入する。・つくった「リズムのもと」を演奏し、リズムを確認する。・教科書p.38②のリズムの例を全員で演奏し、反復、変化のつくり方を理解する。・野菜の大きさなどをイメージしながら、自分でつくった「リズムのもと」を繰り返したりつなぎ合わせたりして、2小節のリズムを数種類作り、工夫した点とともにワークシートに記入する。・つくったそれぞれのリズムをグループで発表し、互いに助言する。	<p>●知音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴について理解している。【観察、ワークシート】</p> <p>*態は各時の取組を総括的に評価する。</p>

● **リズム**、テクスチャ、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したごとと感受したごととの関わりについて考え、まとまりのある創作表現を創意工夫する。

- ・教科書p.39③と④の例を見ながら作例1を聴き、曲想と音の重なり方について理解する。
- ・作例1と2を聴き比べ、音の重なり方による雰囲気の違いで気付いたことをワークシートに記入し、学級全体で意見交流する。
- ・教科書p.39③と④の例を学級全体で試し、重ね方のイメージをもつ。
- ・例だけでなく、グループで重ねる順番を変えて試し、雰囲気の違いを感じ取る。
- ・「どのようなサラダを作りたいか」についてグループでイメージを話し合う。
- ・イメージしたことを基に、どのように重ねていくかをグループで話し合い、「サラダを盛り付ける音楽」を試行錯誤しながらつくる。
- ・同様に「サラダを食べる音楽」を考える。どのように食べていくかというイメージや音の減らし方をグループで話し合い、試行錯誤しながらつくる。
- ・つくりながら工夫した点とつくった音楽をワークシートに記入する。

● **創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿ったリズムや音の重なり方の組合せなどの技能を身に付けて音楽をつくる。**

- ・グループで、速度や強弱の工夫と教科書p.39⑤の例を参考に掛け声をいう人数やタイミングについて話し合い、演奏して試し完成させる。
- ・つくった音楽に掛け声を入れ、グループごとに「サラダを盛り付ける音楽」と「サラダを食べる音楽」の演奏を続けて発表し、学級全体でそれぞれの作品についてのよさを伝え合う。
- ・これまでの学習を振り返り、リズム創作に関する自分の考えの深まりや変容と、創作のよさや面白さについてワークシートに記入し、学級全体で意見交流する。

● **思**リズム、テクスチャ、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したごとと感受したごととの関わりについて考え、まとまりのある創作表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。【観察、ワークシート】

● **技**創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、創作で表している。【ワークシート】

● **態**反復、変化、対照などの構成や全体のまとまり、音の重なり方に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。【観察、ワークシート】

フーガ ト短調

教材研究

学習目標 旋律が重なり合っていくおもしろさを味わおう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。(知識)
- (2) 音色，旋律，テクスチャ，形式を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに，曲や演奏に対する評価とその根拠について考え，音楽のよさや美しさを味わって聴く。(思考力，判断力，表現力等)
- (3) 曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。(学びに向かう力，人間性等)

学習指導要領の内容との関連

B鑑賞 (1) 鑑賞 ア (ア)，イ (ア)

〔共通事項〕音楽を形づくっている要素：音色，旋律，テクスチャ，形式
用語や記号など：調

指導と評価の計画の例 (全2時間)

●学習内容 ・学習活動	●評価規準【評価方法】
<p>●曲に関心をもち。</p> <ul style="list-style-type: none">・「フーガ ト短調」の冒頭部分を聴き，感じたことをワークシートに記入し，意見を述べ合う。・どのような楽器で演奏されているのか，どのような場所で演奏されているのか，いつの時代につくられた曲なのかを考え，気付いたことや感じたことなどを自由に話し合う。 <p>●曲想と音色（パイプオルガンの響き），旋律（主題），テクスチャ（旋律の重なり方），形式（フーガ）との関わりについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none">・主題を階名または「ラ」で歌い，旋律を確認する。・第1部（主題が4回現れるところまで）を聴き，主題の現れる回数と，幾つの声部に主題が現れているかについて意見を述べ合う。・主題に着目して曲を通して聴き，主題が現れる回数を聴き取る。・主題の現れ方や旋律の重なり方について，気付いたことをワークシートに記入し，意見を述べ合う。 <p>・既習内容である教科書p.16「パートの役割と重なり方」を参考に，テクスチャについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none">・始めに示された主題が，次々と加わる他の声部によって，繰り返されながら発展していく形式のことを「フーガ」と呼ぶことを知る。	<p>●知 曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。【観察，ワークシート】</p> <p>* 態 は各時の取組を総括的に評価する。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・主題の現れ方と旋律の重なり方に着目して、映像で鑑賞する。 ・パイプオルガンの演奏方法、演奏されている場所、楽器の特徴、音色について、ワークシートに記入し、感じたことや気付いたことを話し合う。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 音色，旋律，テクスチャ，形式を知覚・感受しながら，曲や演奏に対する評価とその根拠について考え，音楽のよさや美しさを味わって聴く。 ・前時の学習を振り返りながら曲を聴き，主題の現れ方や旋律の重なり方，パイプオルガンの音色を知覚し，フーガの形式について確認する。 ・これまでに学習したことを踏まえ，曲のよさや魅力について，知覚・感受したことと関連付けながら批評文を考え，ワークシートにまとめる。 ・ペアや少人数のグループで批評文を発表し合い，それぞれの内容について意見交流する。 ・学級全体で批評文を発表し合い，音楽を聴いて確認しながら，曲への理解を深める。 ・音楽のよさや美しさを味わいながら曲を再度鑑賞し，初めて聴いたときと比べ，感じ取ったことや自分の考えがどのように変化し，深められたかを振り返り，必要に応じて批評文に加筆する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 思音色，旋律，テクスチャ，形式を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに，曲や演奏に対する評価とその根拠について考え，音楽のよさや美しさを味わって聴いている。【観察，ワークシート】 ● 態曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち，音楽活動を楽しみながら主体的・協動的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。【観察，ワークシート】

「アイーダ」から

教材研究

学習目標 オペラに親しみ、その音楽を味わおう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。(知識)
- (2) 音色、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

B鑑賞 (1) 鑑賞 ア (ア), イ (ア)

〔共通事項〕 音楽を形づくっている要素：音色、旋律、テクスチャ

指導と評価の計画の例 (全2時間)

●学習内容 ・学習活動	●評価規準【評価方法】
<p>●曲に関心をもち。</p> <ul style="list-style-type: none">・鑑賞用CDで第2幕から凱旋の場を聴き、音楽の雰囲気などから、舞台上の音楽であることに気づき、どのような場面なのかを想像する。・曲名、あらすじ、登場人物の関係を知る。・第2幕から凱旋の場の場面を視聴する。 <p>●曲想と音色、旋律、テクスチャとの関わりについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none">・「清きアイーダ」「おお、我が故郷」「さらばこの世よ、涙の谷よ」を聴き、声の音色、歌い方、旋律の動きなどの特徴をワークシートに記入する。・第2幕から凱旋の場の冒頭から2分ぐらいまでを、オーケストラのみの部分と合唱が入った部分との違いに注目して聴き、気付いたことをワークシートに記入する。・ワークシートに記入したことを発表し、意見交流する。 <p>●オペラを構成する要素を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none">・再度、第2幕から凱旋の場を聴き、演劇、舞踊、美術のそれぞれが音楽とどのように結び付いているのかをグループや学級全体で共有する。	<p>●知 曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。【観察、ワークシート】</p> <p>* 態 は各時の取組を総括的に評価する。</p>
<p>●音色、旋律、テクスチャを知覚・感受しながら、</p>	<p>●思 音色、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働</p>

曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。

- ・前時の学習を振り返る。
- ・学習したことを踏まえて、第2幕から凱旋の場を聴き、曲に対する評価とその根拠について考えたことを批評文にまとめる。
- ・ペアやグループで批評文を発表し合い、それぞれの内容について意見交流する。
- ・学級全体で批評文を発表し合い、音楽を聴いて確認しながら、音楽のよさや美しさについて共有する。
- ・まとめの鑑賞をする。

きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。

【観察，ワークシート】

- 態**曲想と音楽の構造との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。【観察，ワークシート】

歌舞伎「勸進帳」

教材研究

学習目標 歌舞伎に親しみ、その音楽を味わおう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解する。(知識)
- (2) 音色、リズム、速度、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 歌舞伎特有の表現、長唄の節回しなどに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組むとともに、自分の生活と関わらせながら我が国の伝統音楽に親しむ。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

B鑑賞 ア(ア)、イ(イ)

〔共通事項〕音楽を形づくっている要素：音色、リズム、速度、旋律
用語や記号など：間

指導と評価の計画の例（全3時間）

●学習内容 ・学習活動	●評価規準【評価方法】
<p>●歌舞伎への関心を高める。</p> <ul style="list-style-type: none">・歌舞伎について、知っていることや思い描くイメージなどについて意見交流する。・学びの見通しやその意義について確認する。 <p>●歌舞伎の成り立ちや特有の表現、音楽などについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none">・生徒の意見と比較しながら、舞台の様子及び音や音楽に注意して、歌舞伎の一部を鑑賞する。・気付いたことをグループで話し合ったり、学級全体で意見を発表したりすることで、多様な視点を共有する。・教科書の説明や映像資料の視聴などを通して、歌舞伎の成り立ちや特有の表現、音楽、舞台の工夫などについてワークシートにまとめる。 <p>●歌舞伎音楽の一つである長唄の声の音色や旋律、囃子の音色や合わせ方、速度などの特徴を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none">・「勸進帳」の概要を知り、教科書の「場面1」を、音色、速度、旋律、間に着目して鑑賞し、気付いたことをワークシートにまとめる。・グループで気付いたことを話し合い、学級全体に発表し	<p>*態は各時の取組を総括的に評価する。</p>

<p>て、音楽で確認しながら共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽器について知る。 ・同じ部分を再度鑑賞して確認し、本時の振り返りを行う。 	
<p>●『『寄せの合方』によるリズムアンサンブル』の演奏を通して、長唄の演奏の特徴を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小鼓や大鼓の音色、それらの合わせ方に着目して「寄せの合方」を鑑賞し、気付いたことをワークシートにまとめ、発表する。 ・唱歌について学ぶ。 ・「寄せの合方」の唱歌を唱える。 ・唱歌を唱えながら、手拍子で大鼓のリズムを打つ。 ・指導用CDに合わせて唱歌を唱える。 ・グループに分かれ、パート（小鼓、大鼓）を決めてアンサンブルに取り組む。 ・指導用CDに合わせて演奏する。 ・映像と一緒に演奏する。 ・再度「寄せの合方」を鑑賞し、本時の振り返りとしてアンサンブルを通じた感想や気付きをワークシートにまとめる。 ・学級全体で意見を共有する。 	<p>※鑑賞を深める手立てとして、唱歌やアンサンブルの学習を行う（表現領域での評価はしない）。</p>
<p>●歌舞伎特有の表現、長唄の節回しなどに関心を持ち、音色、リズム、速度、旋律を知覚・感受しながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習について振り返る。 ・場面1～5の情景と、鑑賞のポイント「ここに注目」を確認する。 ・歌舞伎「勸進帳」を鑑賞する。 ・「場面3：詰め寄り」「場面4：判官御手」「場面5：延年の舞」における長唄の特徴や、長唄が場面の情景をどのように効果的に表現しているか（役割）について、ワークシートにまとめる。 ・「歌舞伎のよさや魅力」について、音楽的な特徴やこれまでの学習で理解したことと関連付けながら、自分の意見をワークシートにまとめる。 ・批評文を発表し合い、学級全体で意見交流を行う。 ・これまでの学習で身に付けたことを振り返り、「なぜ我が国の伝統音楽を学ぶのか」や「今後の自分の生活との関わり（何ができるか）」について考えてワークシートに記入する。 	<p>●知音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解している。【観察、ワークシート】</p> <p>●思音色、リズム、速度、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。【観察、ワークシート】</p> <p>●態歌舞伎特有の表現、長唄の節回しなどに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組むとともに、自分の生活と関わらせながら我が国の伝統音楽に親しもうとしている。【観察、ワークシート】</p>

文楽「新版歌祭文」から“野崎村の段”

教材研究

学習目標 文楽に親しみ、その音楽を味わおう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解する。(知識)
- (2) 音色、速度、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 義太夫節の声や楽器の音色、表現の特徴と人形の動きとの関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

B鑑賞 (1) 鑑賞 ア(ア), イ(イ)

〔共通事項〕音楽を形づくっている要素：音色、速度、旋律

用語や記号など：間

指導と評価の計画の例 (全2時間)

●学習内容 ・学習活動	●評価規準【評価方法】
<p>●文楽に関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none">・文楽の映像を視聴して気付いたことをワークシートに記入し、発表する。	<p>●知 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解している。【観察、ワークシート】</p> <p>* 態 は各時の取組を総括的に評価する。</p>
<p>●文楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none">・声や楽器の音色、旋律に注目して音源を聴き、気付いたことや感じ取ったことをワークシートにまとめる。・文楽が生まれた地域や時代について調べ、それらが文楽や義太夫節に与えている影響について考え、ワークシートにまとめる。・まとめたことを学級全体で共有して理解を深める。・理解したことを意識して、再度鑑賞する。	
<p>●文楽の特徴や、義太夫節の声や楽器の音色、速度、旋律を知覚・感受しながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。</p> <ul style="list-style-type: none">・前時の学習を振り返る。・“野崎村の段”のあらすじと主要な登場人物の関係を知る。	<p>●思 音色、速度、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。【観察、ワークシート】</p> <p>●態 義太夫節の声や楽器の音色、表現の特徴と人形の</p>

- ・登場人物の心情について意見を述べ合う。
- ・“野崎村の段”から教科書p.64, 65のポイント1～3の部分聴く。
- ・3つのグループに分かれ、太夫の声の音色、間、語りの速度、旋律に注目してポイント1～3の場面を分担して聴き、グループ内で意見を出し合う。
- ・映像で鑑賞し、グループ内で意見を出し合う。
- ・グループの意見を整理してまとめ、学級全体に発表して共有する。
- ・各グループの発表を参考に、ポイント1と、ポイント2から“野崎村の段”の最後まで視聴し、文楽に対する評価とその根拠について考えたことを批評文にまとめる。
- ・批評文を発表し合い、文楽のよさや美しさについて学級全体で意見を共有する。

動きとの関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。【観察、ワークシート】

義太夫節「野崎村の段」から

教材研究

学習目標 声や音楽の特徴を生かして義太夫節を語ろう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) 音色、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 義太夫節の声の音色やセリフの抑揚、節回しの特徴に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

A表現 (1) 歌唱 ア, イ (イ), ウ (ア)

〔共通事項〕音楽を形づくっている要素：音色、旋律
用語や記号など：間

指導と評価の計画の例（全2時間）

●学習内容 ・学習活動	●評価規準【評価方法】
<p>●文楽における義太夫節の役割について知る。</p> <ul style="list-style-type: none">・これから学習する義太夫節の場면을映像資料などで鑑賞する。・文楽に関する基本的な内容や義太夫節について、教科書を参照するなどして理解する。 <p>●義太夫節の声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none">・模範演奏を聴き、登場人物の背景や心情を捉えるとともに、義太夫節の声の音色や響き及び言葉の特性と発声との関わりについて気付いたことをワークシートに記入し、発表する。・模範演奏に合わせて語る。 <p>●義太夫節の声の音色、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none">・文楽が舞台上で上演されている映像を視聴して、情景や人形の動きを参考にしながら、どのような表現にすればよいかを考える。・模範演奏を聴いたり語ったりして、声の音色やセリフ	<p>●知声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解している。【観察、ワークシート】</p> <p>●思音色、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。【観察、ワークシート】</p> <p>*態は各時の取組を総括的に評価する。</p>

<p>の抑揚，節回しの特徴を感じ取るとともに，どのような声の音色や言葉の発音で語ったらよいかを考え，ワークシートに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 考えたことや感じ取ったことについて意見交換する。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 創意工夫を生かした表現で義太夫節を語るために必要な発声，言葉の発音，身体の使い方などの技能を身に付ける。 ・これまでに学習してきたことを生かして義太夫節を語る。 ・義太夫節にふさわしい表現をするために必要な発声，言葉の発音，身体の使い方などを個人やグループで追求し，発表する。 ・他のグループの演奏を聴き，感想を伝え合ったり，自分たちの演奏を振り返ったりする。 ・最後に全員で，義太夫節の声や音楽の特徴を生かして，文楽の映像に合わせて語る。 ・義太夫節のよさ（魅力や面白さ）をワークシートにまとめ，学級全体で意見交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 技 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声，言葉の発音，身体の使い方などの技能を身に付け，歌唱で表している。【演奏】 ● 態 義太夫節の声の音色やセリフの抑揚，節回しの特徴に関心をもち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。【観察，ワークシート】

世界の諸民族の音楽

教材研究

学習目標 世界のさまざまな声の音楽を味わおう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解する。(知識)
- (2) 音色、リズム、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協動的に鑑賞の学習活動に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

B鑑賞 (1) 鑑賞 ア(ウ), イ(ウ)

〔共通事項〕音楽を形づくっている要素：音色、リズム、旋律、テクスチャ

指導と評価の計画の例（全2時間）

●学習内容 ・ 学習活動	●評価規準【評価方法】
<ul style="list-style-type: none">●「グリオ」「フラメンコ」「京劇（ジンジュ）」「ブルガリアの女声合唱」を聴き、世界の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について関心をもつ。<ul style="list-style-type: none">・それぞれの曲名と、どこの国や地域の音楽かを確認しながら聴く。・それぞれの音楽が、文化や歴史などどのように結び付いているのかを知る。●「グリオ」「フラメンコ」「京劇（ジンジュ）」「ブルガリアの女声合唱」の音色、リズム、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。<ul style="list-style-type: none">・声の音色、リズム、旋律、テクスチャに着目しながら音源を聴き、聴き取ったことや感じ取ったことをワークシートに記入する。・捉えた特質や雰囲気を基に、共通点や相違点について考え、ワークシートに記入し意見を共有する。●それぞれの音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解する。<ul style="list-style-type: none">・知覚・感受したことを基に、音楽の多様性について考え、ワークシートに記入する。・自分の考えを発表し合い、再度鑑賞しながら互いの意見を確認する。	<ul style="list-style-type: none">●思①音色、リズム、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。【観察、ワークシート】●知諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解している。【観察、ワークシート】

	<p>* 態 は各時の取組を総括的に評価する。</p>
<p>● 音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の学習の振り返りをする。 ・ 曲の魅力と音楽の特徴やその背景とを関連付けながら聴き、音楽のよさや美しさについて気付いたことや感じ取ったことなどをワークシートに記入する。 ・ 自分の考えを発表し、意見交換する。 ・ これまでの学習を振り返りながら、まとめの鑑賞をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 思② 音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。【観察，ワークシート】 ● 態 諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。【観察，ワークシート】

学習指導案例

1. 題材名

言葉の抑揚を生かして旋律をつくろう（創作）

本事例は、俳句に旋律を付ける創作の題材である。学習指導要領の内容は、「A表現」（3）創作の事項ア、イ（ア）、ウ、〔共通事項〕（1）アの音楽を形づくっている要素のうち、リズム、旋律、〔共通事項〕（1）イの用語や記号などのうち、音階を扱う。

2. 学習指導要領の指導事項

- ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を創意工夫すること。
- イ（ア）音階や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解すること。
- ウ 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。

3. 題材の目標

音階や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解するとともに、それらを生かしたまとまりのある創作表現を創意工夫して旋律をつくる。

4. 教材について

〈本題材の旋律創作に係る課題や条件について〉

- ・ 次の俳句に音を付けて4分の4拍子、4小節の旋律をつくる。
「古池や ^{かわず} 蛙飛び込む 水の音」
- ・ 言葉の抑揚に合った旋律をつくる。
- ・ 民謡音階を使う。
- ・ 最後はレ、ソ、レのどれかの音で終わる。

本題材では、言葉の抑揚を生かしながら、音のつながり方を工夫して旋律をつくる学習を行う。

使用する俳句は、松尾芭蕉の「古池や 蛙飛び込む 水の音」である。生徒は情景をイメージしやすいだろう。

旋律創作の手掛かりとして、俳句について丁寧に解釈したり、創作の際に工夫する点について具体的に発問したりして、生徒が意欲的に取り組み、充実した創作活動を行えるようにしたい。

使用する音階は民謡音階（五音音階）とし、その特徴や雰囲気を生かして創作活動を行うこととした。なお、歌ったり楽器で演奏したりしやすいように、用いる音はレからレまでとした。

5. 題材の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
題材の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 音階や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴について表したいイメージと関わらせて理解している。(知識) 創意工夫を生かした表現で旋律をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、創作で表している。(技能) 	リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、まとまりのある創作表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。	言葉を基にイメージと関わらせて旋律をつくることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。
1時	○(知識) 〈観察, ワークシート〉		↓
2時		○ 〈観察, ワークシート〉	↓
3時	○(技能) 〈作品〉		○ 〈観察, ワークシート〉

6. 指導と評価の計画 (全3時間) ※評価規準は省略

時	◆ねらい ●学習内容 ・学習活動	○指導上の留意点
1	◆音階や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解する。	
	<ul style="list-style-type: none"> ●本題材の見直しをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> 童謡「ぞうさん」「犬のおまわりさん」などを聴き、歌詞の言葉の抑揚やリズムと旋律との関わりを理解する。 本題材では、言葉の抑揚やリズムを生かして、音のつながり方を工夫して旋律をつくることを知る。 ●音符、休符、民謡音階について復習する。 <ul style="list-style-type: none"> 4分音符、8分音符、4分休符、8分休符の長さの割合を確認する。 民謡音階の特徴を確認する。 ●言葉の抑揚と音高との関わりを理解する。 <ul style="list-style-type: none"> 言葉の抑揚やリズムをワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○楽譜を見ながら聴き、言葉の抑揚やリズムと旋律との関わりを視覚、聴覚の両面から理解できるようにする。 ○ふだん使っている言葉の抑揚やリズムを生かして旋律をつくることを知らせ、旋律創作の面白さに気付くことができるようにする。 ○「タン」や「タ」と発音しながら手で打つなどして、実感を伴って音符や休符の長さの割合を確認させる。 ○音階を歌ったり楽器で演奏したりして確認するよう促す。また、既習教材にも触れる。 ○言葉を発音しながら、抑揚に合わせて手を上下に動かす活動などを取り入れ、実感を伴った理解を促す。 ○記譜の仕方を確認する。

	<ul style="list-style-type: none"> ●音のつながり方や民謡音階の特徴を理解する。 ・順次進行, 跳躍進行, 上行, 下行について, それぞれの特徴とどのような感じがするかを考えてワークシートに記入し, グループで話し合う。 ・民謡音階の特徴について, グループで話し合う。 ・グループの意見を発表し合い, 学級全体で共有する。 ・友達の見分で参考にしたいことを, ワークシートに書き加える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○旋律の音のつながり方には, 順次進行と跳躍進行があることを説明し, 生活の中にあふれている音楽は, この進行によってできていることに気付くよう促す。 ○音のつながり方や民謡音階を音源などで確認しながら, 特徴を知覚・感受できるようにする。 ○音のつながり方の特徴によって, 旋律の感じが変わること気付かせる。 ○実際に音を出して自分たちの考えを正確に伝えることで, 学級全体の理解がより深まるようにする。
2	<ul style="list-style-type: none"> ◆リズム, 旋律を知覚し, それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら, 知覚したことと感受したこととの関わりについて考え, まとまりのある創作表現としてどのように表すかについて思いや意図をもつ。 ●前時の復習と本時の見直しをもつ。 ・言葉の抑揚と音高との関わりを確認する(復習)。 ・音のつながり方の特徴を確認する(復習)。 ・本時では前時に学んだことを生かしながら, イメージと関わらせて俳句に旋律を付けることを知る(見直し)。 ●リズム, 旋律を知覚し, それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら, 知覚したことと感受したこととの関わりについて考え, まとまりのある創作表現としてどのように表すかについて思いや意図をもつ。 ・俳句から感じ取ったイメージを自分の言葉でまとめ, ワークシートに記入する。 ・俳句から感じ取ったイメージを旋律で表現するために, 音のつながり方(順次進行, 跳躍進行, 上行, 下行)や民謡音階の特徴をどのように生かしたらよいかを個人で考えてまとめ, ワークシートに記入する。 ●創意工夫を生かして旋律をつくる。 ・表したいイメージを旋律で表現するために, 音のつながり方や民謡音階の特徴をどのように生かしたらよいか, 考えたことを基に, まとまりを意識して個人で4小節の旋律をつくり, ワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○情景や感情も旋律で表現できることを知らせ, 旋律創作の面白さに気付くよう促す。 ○生徒が情景をイメージしやすいように, 俳句の内容について適宜補足する。 ○旋律の音のつながり方をいろいろと試す過程で, 「このような旋律にしたい」という思いや意図をもてるようにする。 ○言葉で説明できるよう, ワークシートを活用する。 ○音で確認できるように, 歌ったり楽器で演奏したりする活動を取り入れる。 ○正解は1つではないので, 創意工夫を生かして自由につくるよう伝える。

3	<p>◆創意工夫を生かした表現で旋律をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、創作で表す。</p>	
	<p>●前時の復習と本時の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のつくった旋律を演奏して確認する（復習）。 ・本時では協働的な学習を通して、よりイメージに合った旋律になるよう工夫することを知る（見通し）。 <p>●創意工夫を生かした表現で旋律をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、創作で表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3～4人のグループに分かれ、俳句から感じ取ったイメージ、表したいイメージを表現するために工夫した点、つくった旋律を互いに発表し、気付いたことをアドバイスし合う。 ・グループの代表作品を選んで学級全体で発表し、意見を述べ合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・表したいイメージと音のつながり方の特徴とを関わらせて、自分の旋律を完成させる。 ・完成した旋律を五線に書く。 <p>●本題材の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律創作の学習を振り返り、ワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が感じ取ったイメージを表現するために工夫した点を確認させる。 ○前時の学習を深める活動であることを伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ○旋律の音のつながり方の特徴に注目してつくった旋律を聴き、互いの作品について意見を述べ合うようにする。 ○ワークシートで確認するよう促す。 ○ワークシートを見ながら作品を聴き、つくった生徒の思いや意図と音楽的な特徴とを関連させながら鑑賞するよう促す。 ○作品を聴いて工夫していると感じた点や、改善したほうがよいと感じた点などを述べさせる。 ○学級全体で出た意見やアドバイス、分かったことを生かしながら、思いや意図をもち、創意工夫するよう促す。 <ul style="list-style-type: none"> ○授業を通して学んだことや、旋律をつくる意義について、自分の考えをまとめることができるようにする。

学習指導案例

1. 題材名

曲の構成に注目しながら、曲想の変化を味わおう（鑑賞）

本事例は、ベートーヴェン作曲「交響曲第5番 ハ短調 第1楽章」を教材とした鑑賞の題材である。学習指導要領の内容は、「B鑑賞」（1）鑑賞の事項ア（ア）、イ（ア）、〔共通事項〕（1）アの音楽を形づくっている要素のうち、音色、リズム、旋律、形式、構成、〔共通事項〕（1）イの用語や記号などのうち、調、動機、フェルマータを扱う。

2. 学習指導要領の指導事項

ア（ア）曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。
イ（ア）曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること。

3. 題材の目標

- （1）「交響曲第5番 ハ短調 第1楽章」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。（知識）
- （2）「交響曲第5番 ハ短調 第1楽章」の音色、リズム、旋律、形式、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。（思考力、判断力、表現力等）
- （3）「交響曲第5番 ハ短調 第1楽章」の曲の構成と曲想の変化に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。（学びに向かう力、人間性等）

4. 教材について

「交響曲第5番 ハ短調 第1楽章」 ベートーヴェン 作曲

ベートーヴェン作曲「交響曲第5番 ハ短調」は、1808年、ベートーヴェンが38歳になる年に完成した。巧みな主題展開や構成力において優れたバランス感覚がみられ、交響曲の代表作として位置付けられている。第1楽章は、「このように運命は扉をたたく」で有名な冒頭の動機を使用したハ短調の第1主題と、滑らかな曲想の第2主題によって構成されており、ソナタ形式ではあるが、コーダが通常より拡大されているという特徴がある。動機がどのように変化、発展していくかということを手掛かりに、よさや美しさを味わわせたいと考え選択した。中学2年生にとって、曲想と音楽の構造との関わりを捉えながら曲の魅力及びオーケストラ音楽の魅力に迫ることができる音楽である。

5. 題材の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
題材の評価規準	「交響曲第5番 ハ短調 第1楽章」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。	「交響曲第5番 ハ短調 第1楽章」の音色、リズム、旋律、形式、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。	「交響曲第5番 ハ短調 第1楽章」の曲の構成と曲想の変化に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
1時	○ 〈観察, ワークシート〉		↓
2時		○ 〈観察, ワークシート〉	○ 〈観察, ワークシート〉

6. 指導と評価の計画（全2時間） ※評価規準は省略

時	◆ねらい ●学習内容 ・学習活動	○指導上の留意点
1	<p>◆「交響曲第5番 ハ短調 第1楽章」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。</p> <p>●本題材の見通しをもち、曲に関心をもつ。 ・本題材では「交響曲第5番 ハ短調 第1楽章」のよさを味わって自分の意見をもてるように学習していくことを知る。</p> <p>・第1主題を聴き、曲や作曲者について知っていることを述べ合う。</p> <p>・楽器に着目して第1主題を聴き、オーケストラで演奏されていることを知り、オーケストラの楽器を確認する。</p> <p>・作曲者について教科書などを参照して知る。</p> <p>●曲想と音色（オーケストラの響き）、リズム（動機）、旋律（動機、主題、ハ短調）、形式（ソナタ形式）、構成（動機や主題の</p>	<p>○なぜ「交響曲第5番 ハ短調」がこれほど有名になり繰り返し演奏され聴かれてきたのか、その理由をこの授業によって知り、自分もそのよさを味わえるのだという期待と見通しを、題材の始まりにもつことができるようにする。</p> <p>○曲や作曲者について、生徒が知っていることを自由に述べ合うことで、これからの学習や曲に対する学級全体の関心を高めることができるようにする。</p> <p>○弦楽器、木管楽器、金管楽器、打楽器の音色について、オーケストラの各楽器の音色が分かるような映像等も活用して確認するとよい。</p>

	<p>反復や変化)との関わりについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動機のリズムを手で打つなどして、冒頭の動機について理解する。 ・動機に着目して第1主題を聴き、動機がどのように現れたかについて意見を述べ合う。 ・第1主題の曲想と動機について、聴き取ったことや感じ取ったことをワークシートに記入する。 ・曲想の変化に着目して第2主題を聴く。 ・動機に着目して第2主題を聴き、動機がどのように現れたかについて意見を述べ合う。 ・第2主題の曲想と動機について、聴き取ったことや感じ取ったことをワークシートに記入する。 ・提示部、展開部、再現部、コーダという「ソナタ形式」について理解し、各部分を区切って聴いて、それぞれの曲想や気付いたことについてワークシートに記入する。 ・「ソナタ形式」に着目して、第1楽章を通して鑑賞する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単に「動機」などの用語を覚えるだけの学習にならないよう、実感を伴って理解できるようにする。 ○第1主題では、動機が音の高さを変えて反復して現れることを、音楽を聴いて確認する。 ○楽器の音色や調性にも注目するよう促す。 ○旋律の動きや調性に注目するよう促す。 ○第2主題では、動機の音型が上行が変わって現れることを、音楽を聴いて確認する。 ○楽器の音色にも注目するよう促す。 ○「ソナタ形式」については教科書などを参照する。 ○第2時のグループ活動で考えを広げたり深めたりできるよう、第1時のまとめとして個人の考えをしっかりとめるようにする。 ○第1楽章全体を通して鑑賞することで、ソナタ形式という構成の面白さに気付くことができるようにする。
2	<ul style="list-style-type: none"> ◆「交響曲第5番 ハ短調 第1楽章」の音色、リズム、旋律、形式、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。 ●「交響曲第5番 ハ短調 第1楽章」の音色、リズム、旋律、形式、構成を知覚・感受しながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。 ・第1楽章を提示部、展開部、再現部、コーダに区切って聴き、前時の学習内容を振り返る。 ・「展開部」「再現部」「コーダ」の3グループに分かれ、担当する部分を聴きながら、曲想と音楽の構造との関わりについてグループで意見を出し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時のワークシートを見ながら、動機や曲想の変化について学習したことを思い出す。 ○学級の生活班をベースにグループ分けしてもよい。 ○グループごとに音源（担当する部分だけを収録したもの）を用意し、すぐに聴いて確認できるような環境をつくる。 ○ワークシートに記入した自分の意見を発表し

<ul style="list-style-type: none"> ・グループの意見を整理してまとめ、「展開部」「再現部」「コーダ」の順に、各部分の曲想と音楽の構造との関わりについて学級全体に発表して共有する。 ・各グループの発表を参考に、ソナタ形式を意識して第1楽章を通して聴き、「交響曲第5番 ハ短調 第1楽章」に対する評価とその根拠について考えたことを批評文にまとめる。 ・批評文を発表し合い、音楽のよさや美しさについて学級全体で共有する。 	<p>合うだけでなく、グループで音楽を聴きながら曲想と音楽の構造との関わりについてさらに追求する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○話し合いだけに終始しないよう、指導者は各グループに注意を払う。 ○グループの意見と音楽とを結び付けられるよう、発表中あるいは発表直後に、音楽を聴いて学級全体で確認する時間をつくる。 ○ここでいう「評価」とは、曲や演奏のよさや美しさなどについて自ら考え、その価値を判断することである。「その根拠」には、曲想と音楽の構造との関わりといった知識に関する内容（理解したことや捉えた特徴など）が含まれることが大切である。
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学習指導案例

1. 題材名

声や音楽の特徴を生かして長唄を唄おう。（歌唱）

本事例は、長唄「勸進帳」、歌舞伎「勸進帳」を教材とした歌唱の題材である。学習指導要領の内容は、「A表現」(1)歌唱の事項ア、イ(イ)、ウ(ア)、〔共通事項〕(1)アの音楽を形づくっている要素のうち、音色、旋律、〔共通事項〕(1)イの用語や記号などのうち、拍を扱う。

2. 学習指導要領の指導事項

- ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫すること。
- イ(イ) 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解すること。
- ウ(ア) 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けること。

3. 題材の目標

長唄の声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解するとともに、それらを生かした曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌う。

4. 教材について

長唄「勸進帳」、歌舞伎「勸進帳」 三世並木五瓶 作詞／四世杵屋六三郎 作曲

歌舞伎「勸進帳」は源 義経や武蔵坊弁慶などが登場する物語であり、生徒にとってなじみやすいものである。「勸進帳」を教材として扱い、用いられている長唄を実際に歌う体験を通して長唄の音楽的な特徴を感じ取るとともに、伝統芸能としての歌舞伎を味わわせたいと考え選択した。

「これやこの～山かくす」の部分

荷物持ちに変装した義経が、山伏姿の弁慶と4人の家来を従えて安宅の関所に到着する場面の音楽。生徒が堂々と豪快に声を出して歌いやすいと考え選曲した。

5. 題材の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
題材の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・長唄の声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解している。(知識) ・創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。(技能) 	長唄の声の音色、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。	長唄の声の音色や旋律の特徴に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。
1時	○(知識) 〈観察, ワークシート〉		↓
2時		○ 〈観察, ワークシート〉	↓
3時	○(技能) 〈演奏〉		○ 〈観察, ワークシート〉

6. 指導と評価の計画 (全3時間) ※評価規準は省略

時	◆ねらい ●学習内容 ・学習活動	○指導上の留意点
1	<p>◆歌舞伎における長唄の役割について知り、長唄の声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解する。</p> <p>●本題材の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学んだ我が国の伝統的な歌唱の学習について振り返る。 ・本題材では、歌舞伎の音楽である長唄の特徴を理解し、創意工夫して実際に歌うことを知る。 <p>●歌舞伎を視聴し、長唄や下座音楽の役割を理解して、歌舞伎特有の雰囲気と音楽との関わりに関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌舞伎「勸進帳」の概要を知り、ダイジェストを鑑賞する。 ・映像資料の視聴などを通して、長唄や下座音楽の役割、役者、演出や舞台の特徴、江戸で歌舞伎が発展してきたことなどについてワークシートにまとめる。 	<p>○「なぜ我が国の伝統的な音楽を学ぶのか」や「(例えばこれまでに学習した「民謡」や「箏」の弾き歌いなどを例に出しながら)我が国の伝統的な歌唱には、どのような特徴があるか」などについて復習、確認する。</p> <p>○歌舞伎に関する基本的な内容について、映像を視聴しながら理解できるようにする。</p> <p>○歌舞伎「勸進帳」のあらすじを分かりやすく解説し、理解を促す。</p> <p>○歌舞伎が総合芸術であることを捉え、その中で長唄や下座音楽がどのような役割を担っているかを考えるようにする。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ●長唄の声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解する。 ・長唄の模範演奏を聴き、声の音色や節回しの特徴について気付いたことや感じ取ったことをワークシートにまとめ、発表する。 ・長唄「勸進帳」を実際に歌っている映像を視聴し、気付いたことや感じ取ったことをワークシートにまとめ、発表する。 ・長唄を模範演奏に合わせて歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○知覚・感受したことを記入させ、声の音色や節回しの特徴について気付いたことや感じ取ったことを発表させる。 ○映像を視聴してさらに知覚・感受したことを記入させ、気付いたことや感じ取ったことを発表させる。 ○実際に歌ったり、聴いたりするなどして確認する。 ○模範演奏を聴いてどのような歌い方をすればよいかを考えながら、発声と言葉の特性に気を付けて歌うよう促す。
2	<p>◆長唄の声の音色、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●長唄の声の音色、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもつ。 ・長唄を歌ったり模範演奏を聴いたりしながら、どのような声の音色や言葉の発音で歌ったらよいかを考える。 ・歌舞伎の場面を視聴し、歌舞伎における長唄の役割について考える。 ・様々な歌唱表現を試し、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもつ。 ・考えたことや感じ取ったことについてグループで意見交換し、学級全体で意見を共有する。 ・学級全体で共有したことを基に、さらによりよい表現の仕方を追求する。 	<p>の働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○声に出して歌詞を読み、実際に歌ったり模範演奏を聴いたりしながら、声の音色や言葉の発音についてどのように表現すればよいかを考えるよう促す。 ○長唄の場面を鑑賞する際は、役者の表情や演技、歌舞伎全体の雰囲気に注目するよう助言する。 ○歌舞伎における長唄の役割について考えるよう促す。 ○長唄の声の音色や響き及び言葉の特性（言葉の抑揚、アクセント、リズム、子音と母音の扱い、産み字など）と、歌舞伎の場面との関わりについて考えるよう促す。 ○歌舞伎の長唄を聴き、役者の表情や演技を参考にしながら、様々な歌い方を試行錯誤し、どのように表現すればよいかを考えるよう助言する。 ○考えた内容を基にグループで意見交換し、学級全体でも意見を共有する。 ○様々な意見を基に、歌舞伎を鑑賞して感じ取ったことや音楽的な特徴を生かしながら、このように

		表現したいという思いや意図を追求できるようにする。
3	<p>◆創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。</p> <p>●長唄にふさわしい声の音色や響き、言葉の特性を生かした歌唱表現をするために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けて表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までに学習してきたことを生かし、長唄を歌う。 ・長唄にふさわしい表現をするために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などを個人やグループで追求する。 ・グループごとに演奏を発表し合い、互いの演奏に対して意見を述べ合う。 ・既習の合唱曲と長唄「勸進帳」の声の音色や響き、言葉の特性、曲想の違いなどに着目して比較しながら、それぞれのよさや魅力について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時では、前時に学習した、どのように表したいかという思いや意図を大切にしながら、歌唱表現を追求していくことを伝える。 ○声の音色、言葉の発音、身体の使い方などを再度確認し、個人やグループごとに助言する。 ○どのように表したいかという思いや意図を発表してから演奏するのよよい。 ○題材で学習したことを基に、合唱曲と長唄を比較しながら、それぞれの特徴や違いについて自分なりの考えをもち、ワークシートに記入させる。